ホスピタウン便り

発行責任者　ホスピタウン事務局
VOL78　平成 29 年 1 月

聖路加国際病院 名誉院長
医療法人 真誠会 名誉理事長
日野原 重明 先生

社会福祉法人
医療法人 真誠会 理事長
小田 貢

天空に大きな円の弧を描く
ー ホスピタウンの更なる発展をめざして ー

理事長　小田　貢

新年明けましておめでとうございます。

聖路加国際病院名誉院長であり、医療法人真誠会の名誉理事長である日野原重明先生が英国の宗教詩人による詩の一小節を引用して、「天空に大きな円を描きなさい。その円はあなたの代で完成することはできないかもしれない。でもあなたはその円の弧になることができる」と教えてくださいました。その教えで私はハッと“自分がこれからすべきこと”に気付きました。それは私がホスピタウンという名前で医療福祉を実践することによって、私の医療福祉の理念を、米子、鳥取へと更に広めることでした。

そこで私は 29 年前に米子市河崎で最初の医療福祉の街ホスピタウンをつくってから少しずつ大きくし、米子のなかで 4 つの拠点を作ることができました。また全国的には、私のホスピタウン構想に共感して熊本、神戸、出石、そして長野にも同じよう医療福祉活動が展開されました。

そして本年新たな円の弧を描くことができるようになりました。それは5月には弓ヶ浜小規模多機能型居宅介護（夜見町）: 浜の絆、6月には福米地域密着型介護老人福祉施設：皆生ピースポート、通所介護事業所：皆生ローズガーデン、7月には真誠会セントラルクリニック、ゆうとぴあの後ろに医療依存度の高い高齢者のためのサービス付き高齢者向け住宅：ホスピタウンレジデンス（60室）が次々に完成します。このホスピタウンレジデンスは、山陰のサ高住ではまだ少ないターミナルケアも行いたいと思っております。

これらの事業所を展開するためには職員を新たに 50人近く雇用し、教育して米子市の広い範囲にわたってホスピタウンの医療福祉を展開します。

ホスピタウン構想ができた 29 年前と異なり、団塊の世代が後期高齢者となる 2025 年問題が目前に迫るなか、この問題を解決するためには、当初のホスピタウン構想、医療福祉だけでは不十分な時代になってきました。

この問題を解決するために政府は、地域包括ケアシステムを構築し各地域包括支援センターが地域住民と一体となり包括的なサービスを提供し、そのサービスをより効率的に生かすために住民主体の地域ケア会議を構成することが喫緊の課題になっております。

そこで私たちは今までの医療福祉の提供だけではなく、地域包括ケアサービスの一翼を担い、同時に地域ケア会議の構成の助言をして、地域の自助力を向上し、高齢者、独居者、認知症の人、障がい者の方々が最期まで自分が生活してきた地域で暮らせるように支援して行きたいと思います。それは同時に私にとって新たな大きな円の弧を描くことにもなります。いつまでも日野原先生の教えを守って行きたいと思います。

第12回 弓浜助け合いネットワーク
～動き出した地域ケア会議と地域包括ケアシステムの構築～

【主催】米子市（米子市弓浜地域包括支援センター）、弓浜助け合いネットワーク実行委員会
【共催】社会福祉法人真誠会、NPO 法人がいなネット
【後援】米子市社会福祉協議会

米子市弓浜地域の住民、行政、専門機関が連携して地域づくりを考えるシンポジウム「第 12 回弓浜助け合いネットワークの会」が昨年 11 月 27 日、同市大崎の弓浜ホスピタウンで開かれました。「動き出した地域ケア会議と地域包括ケアシステムの構築」をテーマに、基調講演や意見交換会などが行われ、ますます重要になる地域での助け合いの社会について理解を深めました。

基　調　講　演

「すべては地域ケア会議から始まる～2025年地域包括ケアシステムの構築にむかって」

医療法人・社会福祉法人　真誠会
理事長　小田　貢

「団塊の世代」が 75 歳を超えて後期高齢者となる 2025 年問題。2.5 人に 1 人が 65 歳以上、4 人に 1 人が 75 歳以上になる計算です。介護や福祉分野の需要はますます増え、医療費などの社会保障費が急膨張します。2025 年問題は私たちの老後の生活に影響を及ぼす大きな問題なのです。人口減少と少子高齢化はさらに進み、30 年には全人口の 3 分の 1 が高齢者だと言われています。厚生労働省では介護保険事業計画を作り、3 年単位で地域包括ケアシステムの構築を進めています。現在第 6 期計画の途中です。

これからの医療や介護は、国の財政難から、病院に入院しても急性期を過ぎれば早期退して亜急性期のリハビリの回復病院へ、老人保健施設も基本的に約 3 カ月で早期に退所となり、在宅へと向かいます。従来の病院や施設で最期を迎える「施設完結型」から、在宅で最期を迎える「地域完結型」への移行が進んでいます。

成否の鍵は認知症対策

国が目指している地域包括ケアシステムとは、できる限り住み慣れた自宅や地域で暮らし続けながら、必要に応じて医療や介護などのサービスを使い、最期を迎えられるような体制をつくることが目的です。その成否は、認知症対策にかかっていると言っても過言ではありません。

私は「助け合い」と「ネットワーク」という二つのキーワードをこの会の名前に入れています。これらのキーワードがますます重要になる時期が来ました。健康な高齢者は、自分で必要な助けを求めて支援を受けることができます。しかし、認知症の高齢者の場合、助けを求めることができないので、地域の継続的な支援や見守りが大切になるからです。

地域ケア会議の充実を

もう一つのキーワードは「地域」。地域完結型の社会の形成で大切なのは、自分の生活は自分で守る「自助」、地域で助け合う「互助」です。地域内の個別課題を解決するために、「地域ケア会議」が重要な役割を担っていきます。ケア会議を立ち上げるには、地域を引っ張っていく人間の資源（ニューリーダー）の開発が不可欠です。ケア会議の中では、具体的に「脳卒中モデル」「老衰寝たきりモデル」「認知症モデル」などを想定して、準備や勉強をしておくことが必要です。

人は一人で人生を完結することはできません。一人でいる期間が元気だとも限りません。ある時期、人の助けを受けることになります。人から助けてもらう素直な気持ち、「受援力（じゅえんりょく）」を持ちましょう。弓浜地区の地域ケア会議が充実したものになり、この活動が鳥取県全体に広がってほしいというのが私の切なる願いです。

意見交換会　司会進行　小田　貢

～地域包括ケアシステムの構築に向けての様々な取り組みについて～

地域包括ケアシステム構築に向けて活動している、弓浜地域の５団体が事例を発表しました。

和田町 地域ケア会議	富益福祉 ネットワークの あゆみ	御建地域ケア会議から 河崎校区地域ケア会議へ ~広がり始めた地域ケア会議~	高齢者の生活支援	地域と専門職の ネットワーク 地域での取り組み
和田地区民生児童委員 協議会長 西井 通氏	富益地区在宅福祉員 会長 足立 京子氏	御建地域ケア会議 副代表 井原 純一氏	NPO 法人ひだまり 理事長 岡田　隆氏	米子市弓浜地域包括支援センター 管理者 竹内 奈緒美氏

鳥取大学医学部
地域医療学講座教授
谷口 晋一氏

総　評

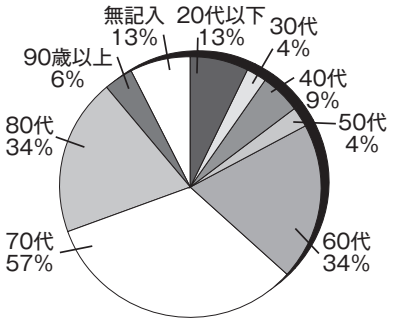
医療や介護は自分たちの地域の力で対応する時代になっていることや、「地域の助け合い」や「ネットワークづくり」が鍵になることが基調講演から、わかりました。「人間が資源」「受援力」など、大事なキーワードも出てきました。これからは、行政と連携して、住民が自覚をもって地域を守る必要があるのだと思います。

弓浜地区の取り組み発表では、地域包括ケアシステム構築に向けた仕組みが非常に先進的で、地域を支える強い力になっていると感じました。

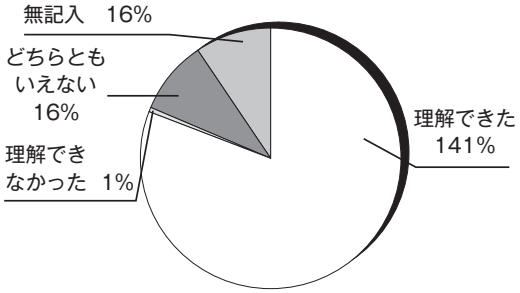
アンケート 集計結果（一部抜粋）

【来場者数】 約 370 人
【アンケート回収】 174

【年代】



Q 本日の会に参加されて、地域ケア会議について理解できましたか。



Q 今後企画してほしい内容（基調講演、コーナー企画など）はありますか。

【企画してほしい内容】
- ●認知症等の話を聞きたい。（ケア、行動、種類など）
- ●家でできる生活の中での身体活動。（運動に限らず）
- ●高齢者の食生活。
- ●引き続き地域ケア会議についてテーマとしてほしい。
- ●防災訓練を取り上げて下さい。
- ●サロン紹介で米子市全ての紹介。
- ●介護保険制度の仕組みについて説明会を開いてほしい。
- ●在宅医療（病院・市など）で利用しやすくするためのディスカッション。
- ●AED講習会等を年2回開催して欲しい(弓浜地区全体として)。
- ●地域ケア会議と個人情報保護との法的制約についての講演・講義を開催していただきたい。
- ●助け合いに行政の制度などどのようなものがあるのか知りたい。
- ●若い世代との交流している地域の活動を聞きたい。
- ●参加者の質問コーナー。
- ●小規模集会への出張説明。

日野原重明先生105歳誕生日 記念講演「メメント・モリ」

医療法人･社会福祉法人
真誠会
理事長　小田　貢

平成 27 年 10 月 4 日に、日野原重明先生 104 歳誕生日記念講演を「しなやかに強く生きてゆくために　愛し愛されること　創めること　耐えること」というタイトルで行いました。

昨年も、平成 28 年 10 月 4 日に、真誠会にて日野原先生 105 歳誕生日記念講演を行いました。タイトルは「メメント・モリ」でした。

メメント･モリとは､直訳すれば「死を想え」または「死を憶（おも）え」､意訳するなら「死生観」。簡単に言えば「（自身にいつか必ず訪れる）死を忘れるな」といった意味です。

日野原先生は、2008 年鳥取にて「与えられた人生、いかに生き、老い、病み、死を迎えるか」というタイトルで講演されました。

最初にこの日野原先生の講演の DVD を上映し、患者さん、ターミナルの患者さんそして講演を聴いている職員にとっての生老病死について、日野原先生の教えの趣旨をわかりやすく話しました。

また、2011 年 4 月に乳がんで亡くなった元キャンディースの田中好子さん、2013 年 11 月に肝臓がんで亡くなった島倉千代子さんの死の直前の皆さんへの感謝と別れの言葉を聴いてもらいました。二人とも、皆さんへ感謝の言葉を述べ立派な最期でした。

自分の死が目の前にきていても勇気がなかったら「ありがとう　さようなら」とは言えないものです。

そして、最近話題になっているのは、歌舞伎俳優・市川海老蔵さんの妻であり、フリーアナウンサーの小林麻央さんのブログについても話をしました。

麻央さんは自分がステージ 4 の乳がんでありながら、闘病生活などを伝えたり、周囲の人への配慮のこもったメッセージをブログ「KOKORO.」で発信されています。多くの人を勇気づけたことが評価され、イギリスの公共放送 BBC による昨年の「100 Women（女性 100 人）」（世界中から影響力を持ち人の心を動かす女性 100 人の一人）に、日本人で一人だけ選ばれました。癌ターミナルで、どのような将来が待ち構えているか明白なこの時期に、数百万の人に生きる喜びを与える、感動を与えることの素晴らしさを感じます。

講演で、「私たちは日頃健康なため、健康で生きていることが当たり前と軽々しく考えていますが、死を考え日々を大切に感謝のこころで過ごすことで自分の人生を豊かなものにし、また病気の患者さんの気持ち、さらに末期の患者さんの気持ちを推察できるようになり、より豊かなケアができる医療人になることが大切です。」と話をしました。

第7回 オールジャパンケアコンテストで表彰

真誠会職員が２名奨励賞を受賞しました

10 月 8 日に米子コンベンションセンターにてオールジャパンケアコンテストが開催されました。真誠会からは９名の職員が参加しました。コンテスト課題に対して、ご利用者が満足して頂けるケアの方法やコミュニケーションを考え、緊張感ある中でしっかりと胸を張って披露しました。

その中で、通所リハビリテーション真誠会の澤田樹里が入浴部門で、通所リハビリテーション弓浜ゆうとぴあの伊達美帆子が口腔ケア部門で奨励賞を頂くことができました。私たちは、ご利用者の気持ちに寄り添い、安全・安心を感じて頂きながら、自立支援の視点を持ちケアをさせて頂くことを常に意識しています。今回の表彰を受け、さらなるケアの向上が図れるよう日々研鑽をして頑張っていきたいと思います。

入浴部門
通所リハビリテーション
真誠会
澤田 樹里

口腔ケア部門
通所リハビリテーション
弓浜ゆうとぴあ
伊達 美帆子

第20回ホスピタウン交流会in米子2017 盛会に開催される

第１回ホスピタウン交流会は、平成８年にしくまもと病院（熊本）と、真誠会（米子）で開催され意見交換を行いました。その後、真星病院（神戸）、出石病院（兵庫）、須坂ホスピタウン（長野）が加わり、一時は5つの医療福祉の連携グループができました。

しかしながら、その後故あって出石病院、須坂ホスピタウンは退会となりましたが、真誠会、にしくまもと病院、真星病院、そして個人として倉橋 卓男先生（出石病院 元病院長）は強い絆で結ばれ、各病院持ち回りでホスピタウン交流会を継続してきました。

昨年は、第 20 回の交流会を真誠会で開催しました。各病院が集まっての勉強会、意見交換会といえば、堅苦しい会を想像しますが、実態はそれぞれの病院のトップである林 茂先生（にしくまもと病院 病院長）、大石 麻利子先生（真星病院 病院長）、倉橋 卓男先生（出石病院 元病院長; 現公立八鹿病院 救急科・総合診療科部長）、それに小田理事長の４人はまるで兄弟のような仲の良さというか兄弟以上にお互いの信頼感があり強く結ばれています。

交流会ではお互いの病院、施設の現状報告、新しい活動、経営などの広い領域に渡って発表し意見交換を行います。林先生は「熊本地震の対応と創造的復興」、大石先生は「生活者の視点から生き甲斐ある職場づくり」、倉橋先生は「第 20 回ホスピタウン記念交流会 ～ホスピタウン自分史～」の発表がありました。どの先生の発表もとても力強い発表で、お互いを勇気付けました。そして小田理事長は「天空に大きな円の弧を描く　－これからの 20 年 改革の連鎖－」というタイトルで記念講演を行いました。

その後、真誠会の研修センターで二部交流会が開かれました。にしくまもと病院からは病院長以外に５人のスタッフ、真誠会から 10 人のスタッフも一堂に会しての交流会でした。

この交流会は、とても盛り上がり、お互い袴を脱ぎ本音のぶつかり合いをするのですが、交流会に参加した４人のトップは、お互いの友情を確認し、今年 10 月真星病院で行われる第 21 回のホスピタウン交流会に向けて、再会を約束して閉会となりました。

友情を新たに

（左から）　倉橋先生　小田理事長　大石先生　林先生

医療法人真誠会「イクボス宣言企業」に認定される

鳥取県男女共同参画推進企業の認定

医療法人真誠会は、平成 28 年 10 月５日付で『鳥取県男女共同参画推進企業』に認定されました。『鳥取県男女共同参画推進企業』とは、仕事と家庭の両立に配慮しながら、男女とも働きやすい職場作りに積極的に取り組む企業を知事が認定する制度です。知事の認定を受けるためには、「仕事と家庭の両立支援」・「男女がともに働きやすい職場作りの取組」・「男女均等な能力活用の取組」などの審査があり、配点の７割以上を満たす必要があります。

真誠会では、患者様・利用者様に良いサービスを提供するためには、職員が働きやすい職場作りが大切であると考えています。そのためにも、性別に関係なく有能な人材を積極的に登用しています。ぜひ、男女とも働きやすい職場を目指す真誠会で勤務してみませんか。

平成28年度地域課題対応人材育成事業
「地域コアリーダープログラム」

イギリスへ海外短期研修に行ってきました

介護老人保健施設 弓浜ゆうとぴあ 介護係長　岡田 修治

ロンドン　ビッグベン
（国会議事堂時計台）

私は昨年 10 月に内閣府の事業である、地域課題対応人材育成事業「地域コアリーダープログラム」に参加し、英国に行かせて頂きました。英国では、ロンドンとブライトンの 2 都市を訪問し、在英日本大使館、NCVO（全国ボランティア団体協議会）、内閣府、チャリティー団体など、11 箇所を視察しました。

英国で一番印象に残ったことは、視察先の多くがボランティア団体やチャリティー団体ということもあり、政府とボランティア団体などの民間団体が対等な関係であることや幅広い取り組み、日常的なボランティアによる活動でした。日本では、災害時などの発生型のボランティアは積極的に行われているが、日常的なボランティアはまだまだ少ない現状があります。高齢者を支える介護人材が不足している日本において、少なからずボランティアの力は必要であり、専門職や地域においても心強い存在になると思います。英国と同じようにボランティア精神を根付かせることは長い年月が掛かり困難であるが、ボランティアがやりがいとして感じられる仕組みづくりが必要ではないかと思います。

英国でもゆるやかに高齢化が進行しており、高齢者の孤立や認知症患者の増加など、日本と同じ問題も抱えており、高齢者がいつまでも健康に過ごせるよう、介護予防の取組も重要視されていました。世界的にも“高齢者の健康づくりは重要視されていることから、まずは、他人事ではなく“自分が要介護状態、認知症になったらどうするか”を自分事として考えていく必要があります。今回の研修で得たことを踏まえ、まずは地元において啓発活動をしていきたいと考えています。

Age UK Lewisham and Southwark（日本でいう認知症デイサービス）でよさこいソーランを披露

働く介護家族応援！ 企業内研修開催支援事業

真誠会職員が外部企業で介護離職の防止を目指す研修を行いました

「家族の介護」は私たちの身近な問題です。実際に、多くの方が家族の介護のために離職せざるを得ない状況があり、「一億総活躍社会の実現」に向けて、介護離職ゼロが大きな課題となっています。鳥取県では、介護離職の防止を目指し、企業を通じて介護サービスや制度に関する情報提供を行うため、『働く介護家族応援！企業内研修開催支援事業』を行っており、本事業を医療法人真誠会が受託しました。

真誠会の職員が講師を務めています

この事業は、県内に所在する企業等を訪問し、介護サービスや介護制度に関する情報提供を行うとともに、企業の社員等を対象に 10 回程度の研修会を実施することとしています。真誠会では、12 月末現在で 8 社を訪問し、7 回の研修会を開催しました。研修会では、介護保険制度の説明を中心として、家族に介護が必要となった時の相談先などについて説明を行っています。

在宅復帰に向けて！！
真誠会ではリハビリテーションを強化しています

生活機能向上のための環境整備

医療法人真誠会・社会福祉真誠会全体で、生活機能向上リハビリに積極的に取り組んでいます。その一環として 2 つの老人保健施設と介護福祉施設で、ご利用者の日常生活動作の自立支援・在宅復帰支援・介護職員の業務効率化・介護負担軽減のために生活環境の工事を行い完成いたしました。工事内容は、①和室の設置。畳上の裸足での歩行・こたつ動作等を練習しています。②各階に個別浴槽を設置。在宅復帰後自宅での入浴ができるように動作練習を行っています。また各階に浴槽を設置することにより介護職員の業務効率化・介護負担の軽減にも繋がります。③キッチン周辺の改修。ご利用者が立位で食器洗いや調理が行いやすくしており、現在食器洗いのリハビリを実施中です。

自宅を想定した生活リハビリの様子。また、別日には畳の上でご利用者の身体状況に合わせて歩行訓練・筋力アップも行っています

真誠会リハビリテーション研修

真誠会では、平成 28 年 10 月より基礎的なリハビリテーションの考え方・方法を学び多職種で実践することで、利用者様の自立支援に繋げる事を目的に「リハビリテーション研修」を全職員対象に開催しています。毎月講義 2 回･実技研修 2 回、今年の 3 月まで継続予定です。現在毎回約 150 名の職員が参加しています。研修を通してソフト面（生活リハビリの計画・実施）の充実を図り、利用者の自立支援・望む生活の実現に職員全員で取り組みます。

講義内容（座学）	①理事長講義 リハビリテーションの方向性
	②目標指向的アプローチ
	③関節可動域
	④日常生活動作
	⑤起居動作
	⑥移乗動作
	⑦筋力訓練
	⑧バランス訓練
	⑨座位・立位訓練
	⑩移動動作
	⑪認知症リハビリ
	⑫嚥下・言語訓練

実技研修	①入浴・排泄
	②関節可動域
	③起居移乗動作
	④ポジショニング
	⑤移動動作
	⑥嚥下

ベッド上での起き上がり動作

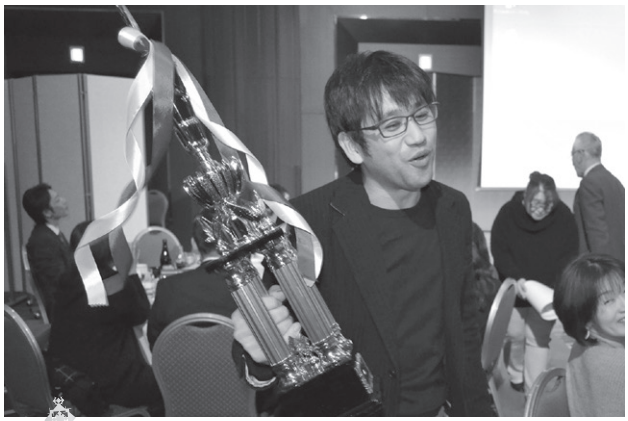
①下肢の重さを臀部に移して股関節を曲げて下肢をベッド下に下ろす

②前腕部で重さを支え、その後手掌部から大腿部へ重さを移して端座位となる

真誠会アカデミー賞

昨年の真誠会合同忘年会で、真誠会アカデミー賞の表彰がありました。

真誠会の発展の為に尽くした事業所（団体）と、個人に対しての表彰を例年より拡大して行いました。個人賞、団体賞ともに大きなトロフィーの授与があり、介護老人保健施設ゆうとぴあがグランプリを獲得しました。



グランプリ

介護老人保健施設ゆうとぴあ

・団体（経営貢献賞）

・個人（ベスト相談員賞、退所調整マイスター）

7月より在宅復帰型介護老人保健施設として運営を開始し、多くの長期滞在者を在宅復帰等の退所に繋げることができました。職員は多職種合同入所当日カンファレンスの導入、老健パスの再考、受け持ち担当制の強化を実践しチーム力をひとつにして取り組みました。

準グランプリ

富益しあわせデイサービス

・団体（ベストレコード賞）

・個人（ベスト事業所長賞）

事業所の環境整備・業務改善に取り組み働きやすい職場に改善しました。また、活動と参加を基本とするリハビリに買い物リハビリを取り入れ、事業所の売りのサービスとしてPRもしてきました。

表彰された事業所は、事業所長も個人の部アカデミー表彰を受けています。

事業所長がアカデミー賞を獲得する部署は成績もよく、そのためアカデミー賞を獲るということがよくわかります。事業所の業績を良くするのも、悪くするのもひとえに事業所長の能力、努力、手腕が評価された結果です。

表彰

若竹庵（脳活性クラブ弓浜真誠会）

・団体（経営貢献賞）

活動と参加できる脳活性リハビリ、竹細工のレクを取り入れ実践していることが話題となり、真誠会の経営に貢献しました。

・個人（ベストリーダーシップ賞）

利用開始前にご自宅を事前訪問し、不安なく通っていただけるような体制をとり、利用者獲得に努力しました。

表彰

生活支援隊

・団体（経営貢献賞）

鳥取県西部地区に約18社の福祉用具貸与事業所がありますが、平成27年度総合第1位となりました。今年度も総合第1位を目指し頑張っています。

・個人（ベストリーダーシップ賞、ベストセールスマン賞）

介護用ベッドの契約台数を「目標台数」ではなく「必達台数」として日々契約台数を管理し常に目標を上回っています。また、真誠会で初めて「男性育児休業」を取得しました。

今年も、団体賞、個人賞の獲得、なかでもそれぞれのグランプリを目指してがんばるぞ！

新年のご挨拶 ～本年もよろしくお願い致します～

辻田耳鼻咽喉科
院長　辻田 哲朗

やっぱり野球

また新しい年がやって来て、今年で 62 才になります。小さい頃から野球が好きな少年でした。丁度掛布や江川と同じ歳なので、彼らが活躍するのを自分とダブらせて見ていました。そして今この歳になっても時々野球をやっています。以前は還暦まではやろうと思っていたのですが、大きな病気もせず還暦過ぎても野球できるのを感謝しています。マラソンでいつも走っており下半身がまだ踏ん張れるからかな。

勿論年相応の野球しかできません。まず動態視力がガクンと落ちて、ボールについていけません。外野を守っていてもフライがまったく捕れません。それでもまだキャッチボールはできるし、コントロールはそこそこなので、時々ピッチャーもやっています。今でも野球の試合がある時は心がワクワクしますし、試合で自分のとこにボール飛んで来たらドキッとします。それと何よりも負けるとたとえ遊びでも悔しいです。自分でも「エエ歳こいて、ガキと一緒やなァー」と思ってしまいます。

海の向こうではイチローが 40 過ぎても頑張っているのを見ると応援してしまいます。それに彼はホントに野球が好きで好きでたまらない顔をしてプレーしているので、野球って幾つになってもできるんだなと勇気が湧いてきます。還暦すぎてもまだまだ野球するぞー。

いえはら歯科
院長　家原　猛

2017　初　春

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年は、予想外のあっと驚くような出来事がいくつかありました。英国の EU 離脱の国民投票、アメリカの大統領選挙、韓国の大統領周辺の不透明な情勢、また、南シナ海等での中国の不審な行動や、北朝鮮での核開発の問題など何とも困った内容の事柄もたくさんありました。国内では熊本をはじめ各地で震災が発生しました。早い復興を願うばかりです。こうした先行きのなかなか見通せない、大きな変化の予想されるご時世において、ふと浮かんだ言葉は、「柔軟性 =flexibility」でした。時間に余裕があれば、予想される状況をしっかりと調査、情報収集し、状況の変化に対応するための方策を幅広い発想、選択肢の中で準備する。時間に余裕がない場合、これまでの経験や知識を基に勇気を持って大胆かつ繊細な感覚も加味しながら対応していきたい。そんな漠然とした想像をしていました。

近年インターネットを中心とした情報伝達あるいは情報整理など関連の機器、技術の進歩にも驚くばかりです。昨年大ヒットした「君の名は」。壮大な宇宙の中で折れ曲がる時間と空間、流れ星のロマンは大災害と隣り合わせ、運命的な出会い、錯綜する夢と現実、そして、今、此処にいる「君と僕」。不思議に涙が溢れて止まりませんでした。初めて触れた時のあの柔らかさ。

今年もこれまでと同様、多くの人生の先輩方を始め、同僚諸氏、多くの皆様のお声に耳を傾けながら、心身のバランス、健康面にも配慮しつつ、頑張るときはしっかり頑張る！そんな気持ちでまたこの 1 年を生き抜きたいと思っています。

この 1 年が皆様にとってもご健勝で、実り多い倖多い年でありますよう祈念し、新年のご挨拶と致します。

新年のご挨拶 ~本年も

介護老人保健施設
弓浜ゆうとぴあ
施設長 五明田 孝

人の寿命は500歳?

これまで人の寿命は 120 歳位で最長は 126 歳であったと言われています。ところが最近読んだ学術書にはいつの日か人の寿命は 500 歳まで延びると記載された途方もないものに出会いました。冗談だろうと思いました。それは最近「ゲノム編集」と言う超先端新技術が開発されたからでした。これは生命の設計図と呼ばれるゲノム（全遺伝情報）を自分の望みどおりに自由にピンポイントで削除や書き換えて改変出来る技術です。

これまであった技術に比べ迅速で効率も良く正確で、少し訓練すれば高校生にも可能な易しいものと言われています。あらゆる動植物の世界に導入可能で肉量の多い魚や農畜産物の生産、腐りにくい野菜などが既に作られています。近い将来間違いなくヒトにも応用される可能性が分かり「メンデル性疾患」と呼ばれる病気の遺伝子が改変され健全な赤ちゃんの誕生も間近いと言われています。また癌やアルツハイマー病、糖尿病等のヒトの病気の治療にも適応される可能性があります。更に人類強化計画（骨折しない骨造り、心臓病に罹りにくい体造り等）、ゲノム編集によってヒトの寿命を大幅に延ばす技術の展開等が考えられているようです。例え技術的に可能でもヒトや動物の DNA を自由に改変することが倫理的に許されるか否か大変懸念されています。

寿命 500 歳「そんなに生きて、どうするの」と言う思いでいっぱいです。

医療法人・社会福祉法人
真誠会 本部長
介護老人福祉施設
ピースポート
施設長 上村 真澄

昨年も大きな自然災害が、日本中いたるところで発生しました。4 月の熊本の大地震そして、10 月の我が鳥取県中部を震源とした地震では、湯梨浜町や倉吉市を中心に大きな被害をもたらしました。改めて災害時の対応について十分な準備が必要だと思いました。それにしても、本年は穏やかな年であって欲しいと思います。

『論語』に「三十にして立つ。四十にして惑わず」という言葉があります。現代では 30 歳前後という年齢が、いろいろと揺れ動く年頃かと思います。他の職種や職場が良く見えたり、このままここにずっと勤めていていいのだろうか、とか考え出すものです。それは、どういうことかというと、この職場に入った当初は、目の前の仕事を覚えるのに精一杯で、我武者羅にやってきたけど、少しは仕事も覚え、気持ちの上で余裕ができてきて、周りをゆっくりと見渡すことができるようになったということです。しかしそれと同時に、立ち止まって考える余裕ができてみれば、一体自分は何をやっているのだろうと思い始めるものです。それは、自分が今居る位置がわからなくなってしまったということです。自分のやっている仕事が、法人全体の中のどこに位置づけられ、どんな風に役に立っているのか見えなくなっているということです。これは決して特別なことではありません。一生懸命仕事に励んできたほとんどの職員に訪れるものだと私は思っています。

そんな時は、真誠会の理念に立ち返ることです。自分たちがやっている仕事が、何のために、誰のために、ということを考えれば、自分が現在やっている仕事が全体の中に位置づけられ、自分の今居る位置が確認できます。そうすれば落ち着いてくるものです。みんな悩んで大きくなっていくのです。

よろしくお願い致します~

医療法人・社会福祉法人
真誠会
看護・介護統括部長
俵 智恵美

学んだことの実践!!

昨年は法人経営の養成講座に４月から１泊２日の研修に東京へ６ヶ月間、行かせていただきました。この研修では経営企画室の役割、国の政策の方向性、マーケティング、管理会計、人材育成、事業計画の作成等々の法人の経営に必要なノウハウを学ばせていただきました。管理会計の研修では財務諸表を読み解く演習や他社の経営状況を分析するトレーニングをしました。日頃、数字に弱いため、この研修は口から数字が出てきそうな心情にとらわれました。今年度はこの半年間の研修で学んだことを現場に反映できるように取り組んで行きたいと思います。

法人内の研修では専門性を高めたサービスの提供を目指して看護師会、介護士会、ケアマネージャーの会、相談員の会がそれぞれにスキルアップ研修会を開催してきました。また、７月から事業所長の研修に鳥取大学医学部病院から看護師長を招き、４回シリーズの研修会を企画しました。「リーダーシップとメンバーシップ」「リフレクション」「アサーティブコミュニケーション」「キャリア開発と動機付け」について講師の現場管理の事例を含めた講義を受けました。

この研修会の振り返りを２か月経過した12月に行ったアンケート調査では「リーダーとして自分のタイプを知りスタッフにあった指示が出せるように努力をしている」「職員とコミュニケーションが取りやすくなった」「職員をほめる・話を聞くように心がけている」「管理者としての自身の行動を振り返るようになった」など、学んだことを個々に実践している様子が窺えました。

各事業所の所長が職員と真剣に向き合って人材育成に取り組んでくれていると心強く思います。今年は昨年に得た知識をさらに現場で活かせるように取り組んでいきたいと思います。

真誠会セントラル
クリニック
事業所長 西川 悦子

昨年４月に真誠会の一員となり、皆様に支えていただき新年を迎えることができました。この１年で①看護技術・知識の向上（フィジカルアセスメント、褥瘡予防、口腔ケア、早期離床、看護記録等）②病棟外来一元化の推進③家族看護④退院支援⑤固定チームナーシング強化（受持担当制）に取り組んできました。また、鳥取大学医学部附属病院看護部の OG という強みで、医療福祉連携センターと協働して大学から約 40 名の紹介を頂きました。

今後も、スタッフと共に昨年に引き続き邁進して参りたいと考えます。

介護老人保健施設
ゆうとぴあ
看護師長 佐平 登志美

昨年は、在宅復帰強化型施設としての運営を行うことができました。その結果、施設を利用したい多くの方の待機時間が減り、施設利用を円滑に行っていくことに繋がりました。限られたベッドを多くの方に利用して頂くには、皆様と共に施設のあり方を検討しながら利用される方のニーズ、また社会的ニーズに応じた運営を行う必要があると考えています。

今年度は、昨年より取り組んでいます固定チーム受け持ち制の推進により、入所の皆様やご家族の方との信頼関係を築き、育むことができる一年に努めていきたいと思います。

新年のご挨拶 ~本年も

介護老人保健施設
ゆうとぴあ
事業所長　山根 賢一

老人保健施設ゆうとぴあは昨年７月より在宅復帰強化型老人保健施設になりました。老健は病院と自宅とを繋ぐ中間施設として在宅復帰機能があります。その機能がしっかりと活きてこその老健ですので、自宅で生活したい…　その願いをご利用者・ご家族と共に二人三脚で支援させて頂きたいと思います。今年はより一層にリハビリ・環境調整・ご家族の介護力の向上を図りながら関わる誰もが笑顔で満足して頂ける老健を目指していきます。

介護老人福祉施設
ピースポート
事業所長　亀澤 正子

私たちは、ご利用者に、こじんまりしたなじみの空間を提供することで、安心して落ち着いて過ごしていただけるのではないかと考えています。

昨年は広場を中心に環境改善をしました。９月には浴室と流し台周りの改装が行われ、明るく清潔感いっぱいになりました。また、12 月から３月末まで、プライバシー保護と更なる生活の質の向上を目的として４人部屋に間仕切りをする工事にとりかかっています。

もう一つ、ご利用者の願いを叶えるお手伝いをしようと取り組んでいます。お元気な頃に作っていたねぎ畑へ行きました。墓参りもしました。15 年ぶりに帰宅し親戚一同と会われました。皆さんのよい表情を拝見して、職員も大きな勇気と喜びをもらいました。今年も職員一丸となって頑張ってまいります。

介護老人保健施設
ゆうとぴあ
事業所長　岡田 修治

弓浜ゆうとぴあでは、自宅を想定した生活リハビリ実施するため、和室と浴室の改修が行われました。専門職による機能訓練だけでなく、普段の生活の中でのリハビリを強化し、ご利用者のできる能力を活かしていきたいと思います。

そして、どうすれば安心してご自宅へ戻っていただけるのか、お一人おひとりと、またそのご家族としっかりと向き合い多職種で考え支援していきたいと思っております。全ての方がご自宅に帰れるわけではありませんが、ご利用者の笑顔を追求し取り組んでいきたいと思います。

真誠会医療福祉
連携センター
センター長 小山 雅美

平成24年度からホームページに掲載をしています「医療介護連携ガイド」の更新も６回目となりました。一度、真誠会ホームページ「在宅医療連携拠点事業 Cosmic Link」をアクセスしてみてください。鳥取県西部圏域の医療・介護事業所の特徴などをみることができます。

そして、今年も真誠会の医療と介護をつなぐ要として、地域住民の方や医療、福祉の専門職の方からの相談が気軽にできる連携センターとして実践してまいります。

リハビリテーション科
課長　大西 博巳

平成 29 年真誠会のリハビリテーションは、入所施設からの在宅復帰・自宅での在宅生活の継続を勧めるために、施設（老人保健施設・老人福祉施設）･通所（通所リハビリ･通所介護・予防通所）・訪問系（訪問リハビリ）の多職種で活動・参加に対する生活リハビリを実践していきます。また、地域でのセラピストの活動（いきいきサロン･介護教室など）を推進し地域に貢献します。

通所介護真誠会
セントラルローズガーデン
事業所長 道祖 正紀

セントラルローズガーデンは、リハビリ強化型通所介護として活動と参加を基に「運動習慣の継続、社会的交流、認知症予防」の取り組みを行い、自立支援の観点から在宅生活の継続が図れるように日常生活事業～要支援～要介護の利用者様に幅広く対応します。また、オレンジカフェの取り組みと共に、認知症対応型通所介護けやき庵は地域密着型サービスとして住み慣れた地域で最期まで暮らせる事ができるよう、皆様と連携を図りながらサービス提供を行って参ります。

訪問看護ステーション
ネットケア
事業所長　神田 典枝

在宅療養が進められるなか、「家で過ごしたい」というご利用者・ご家族の思いを大切に、在宅療養生活への不安を軽減できるような看護の提供ができるように努めています。また昨年度からは小児の訪問看護も行なっております。

病院や医院の医師、看護師、地域の保健師の方々や多職種と連携をとりながら、ご利用者お一人お一人を支える力になっていきたいと思います。そのために看護師としてのスキルアップにも努めていくよう日々研鑽していきたと思います。

よろしくお願い致します~

リゾートケアハウス
リバーサイド
事業所長　矢倉 ツヤ子

ケアハウスの特徴はあくまでも日常生活を自立して行える 60 歳以上の方の人に対し、食事や入浴といったサービスを提供する施設です。食事や入浴以外なら個人の時間は自由に使うことができますが、ともすれば居室にこもりがちになることがあります。

そこで当施設では年間行事に加え月1回のサロンを開催、体操・レクリエーションも再開し大変好評を得ております。健康寿命を心がけ長くお住まいいただくことを願っております。ご家族様にも外出や建物周辺の散歩・ご一緒の食事・お話相手等、できるだけのご支援をどうかよろしくお願いいたします。

看護小規模多機能型
居宅介護真誠会ふる里
事業所長　陰山 佳代子

ふる里は、登録定員 29 名の事業所です。昨年は、26～28 名の登録状況となっています。今年も施設、病院等と連携を図ってご利用者様、ご家族様が安心してご利用していただける事業所を目指していきます。訪問看護ステーションでは、現在 2 名程度の支援を行っています。今後も地域の皆様が安心して自宅で生活が送れるように支える事業所となるよう努めてまいります。

グループホーム
椿庵・桜庵
事業所長　安田 博子

去年グループホーム椿庵・桜庵は「入居者様ひとりひとりができる力を発揮して、共同生活を送ることができる」という目標をかかげ、おひとりおひとりが得意なことや好きなことで自分の力を発揮し、他の人との関わりあいながら生活を送ることを実践してきました。今年はさらにその力を地域の方との関わりを広げて、地域の一員として、「地域の中で普通の暮らしができる」という理念が実現できるよう努めていきたいと思います。皆様どうぞお気軽に椿庵・桜庵にお越しください。

訪問リハビリテーション
事業所長　岡田 健吾

訪問リハビリゆうとぴあでは、自分の住み慣れた住まいで生活を送ることができるように、身体機能の維持・向上や日常生活動作の維持・向上を目指すこと・病院や施設から在宅への橋渡し的な存在も担っていきたいと考えております。また、日常生活関連動作までを視野に入れた目標を立て、ご利用者様が地域活動への参加・社会的な役割の獲得が図れるよう、「地域の中で生きること」を目標に支援していきます。

介護予防センター
真誠会
事業所長　砂原　仁

平成 28 年度より米子市介護予防・日常生活支援総合事業への移行があり、当事業所でも職員一丸となりこれからの「介護予防」を見据え今後も利用者様のニーズに沿ったサービス提供ができるよう日々学びを深めて参ります。

また健康クラブにおいては地域の皆様にご愛顧頂き、平成 28 年 4 月に 10 周年を迎えることができ、厚く御礼申し上げます。「社会貢献」「地域支援」「介護予防」を柱に、健康運動指導士としての役割をしっかりと発揮し地域の皆様の健康寿命の延伸に尽力して参ります。

通所リハビリテーション
ゆうとぴあ
事業所長　小磯 孝則

通所リハビリテーションゆうとぴあでは、心身機能に対する訓練と同時に、『活動』と『参加』に焦点を当てたリハビリやケアに取り組んできました。今年も、利用者様の“やりたい”“やる必要がある”“出来なくて困っている”という想いを少しでも叶えられるようにリハビリやケアを行なっていきたいと思います。

身体に障害があっても、認知症があっても、その人が住み慣れた家、住み慣れた地域で安心してイキイキと暮らしていけるように、スタッフ一同、自己研鑽を重ねて頑張っていきたいと思います。

グループホーム
青松庵
事業所長　秋田 将宏

昨年は認知症の方が「共同で生活する場として」に焦点を当てて取り組んでいます。認知症の方の一人一人の残存機能を把握し、一人一人の役割を考え周りの方と協力して生活する場になるように提供しています。

また、青松庵の理念に「地域の中で普通の暮らしができるように」とあります。地域交流がまだまだ課題とはなっていますが、昨年は自治会の防災訓練にも参加させていただきました。

今年は地域の活動に目を向けて、自分達からどんどん出向き、青松庵の存在をしっかり地域に根付いていきたいと思います。

新年のご挨拶 ~本年も

通所リハビリテーション
真誠会
事業所長 森　貴広

通所リハビリテーション真誠会では、「できる動作はご自分で」をモットーに生活活動リハビリを展開しています。昨年は、農園活動、買い物、ピアノ演奏、卓球、編み物、調理など様々な活動をさせていただきました。本年も、したい活動からできる活動へ繋がるように、スタッフが一丸となり利用者様の希望されるリハビリや活動のサポートをさせていただきます。

通所リハビリテーション
弓浜ゆうとぴあ
事業所長 福田 ひさ子

通所リハビリテーション弓浜ゆうとぴあでは、個別機能訓練、口腔機能向上、栄養改善、脳活性体操、介護予防運動など、さまざまなサービスを実施しています。また、生活リハビリとして、食器洗いなどの家事動作、調理、生け花や将棋・ピアノ演奏など、利用者様のニーズに合わせた取り組みも積極的に行なっています。本年も、「してみたい」からで「できる」ことが増え、利用者様の笑顔が増えるようなリハビリや活動のサポートをチーム一丸となって行なっていきます。

通所介護真誠会
ローズガーデン
事業所長 山田 千佳

真誠会ローズガーデンは、リハビリ強化型デイサービスとして「運動習慣の継続、社会的交流、認知症予防」への取り組みを行っております。「活動」と「参加」に重点を置き予防の意味合いも含めた社会参加促進や心身機能訓練による生活機能の維持向上といった観点からサービスの充実をつとめてまいります。

富益しあわせ
デイサービス
事業所長 中田 純平

富益しあわせデイサービスでは「活動」と「参加」に力を入れ、昨年より地域のスーパーに出掛け、地域の中に入った活動ができるよう「買い物支援」というものに取り組んでまいりました。また、利用中の活動も食事の準備や花壇の手入れ、日用大工など作業にもどんどん行ってもらい利用者様の活動の幅も広がっています。今年も更に利用者の皆様が活躍できる場を提供して地域の中に入ったデイサービスを目指していきます。

脳活性クラブ米子真誠会
（童謡の里）
事業所長 松本 まふみ

今年の童謡の里の取り組みは、オルゴール療法を継続しておこないたいと思います。オルゴールを聴いて頂き、強い音で交感神経をソフトな音で副交感神経を、優位にし組み合わせて聴くことで自律神経のバランスを整えていきます。オルゴール療法には副作用はありませんので、毎日聴いて頂き穏やかな生活の継続のお役に立てばと考えております。

そして、昨年は職員のみの参加でしたが、今年は利用者様と一緒に地域活動に参加させて頂きたいと思っております。

脳活性クラブ弓浜真誠会
（若竹庵）
事業所長 杉谷 めぐみ

昨年は、地域推進会議を行う事で地域の方との関りを多く持てる機会を頂きました。認知症になっても住み慣れた地域で住み続けられるようにスタッフが一丸となって地域活動の参加を行いました。又、若竹庵での取り組みを地域で発揮できるよう地域交流文化展で家族ボランティアとご利用者で豚汁の無料配布を行いました。それぞれが主役になり住み慣れた地域で活動する事でいきいきとした様子が伺えました。今年も皆様のお力をお借りし地域で愛され頼りにされる若竹庵になれるよう努めて参ります。

居宅介護支援事業所真誠会
事業所長 松田 久美子

ケアプランセンター弓浜真誠会
事業所長 松本 智美

ケアプランセンター
セントラルローズガーデン
事業所長 森脇 美佐緒

真誠会には３つの居宅があります。それぞれの事業所には特徴があり、各事業所の特徴を活かし、利用者様の状況やニーズに合わせた支援を行なっております。高齢者の尊厳の保持、自立支援の目的のもと住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最期まで続けることが出来るよう包括支援システムの構築が推進される中、地域でのケアマネージャーの役割は今後ますます大きくなると考えています。利用者様に安心して生活して頂けるよう、そして地域で最期まで生活が出来る環境作り、サービスの提案を心がけ支援して参ります。

よろしくお願い致します~

通所介護
弓浜ゆうとぴあ
事業所長　松本 枝里子

通所介護弓浜ゆうとぴあでは、レクリエーション・個別機能訓練・口腔機能向上・栄養改善等のサービスを実施し、利用者様の意欲、能力の維持・向上を図り在宅生活が継続できるよう利用者様の出来る事・やってみたい事を利用者様と共に考え、参加出来るよう活動していきます。引き続きボランティアによる行事や家族様との意見交換会を実施し利用者様と地域との交流から良いサービスが提供できるように取り組んで参りたいと思います。利用者様が笑顔溢れ、活躍できる場の提供に努めていきます。

透析施設オアシス
事業所長　加瀬部　寛

昨年は、看護師の取り組みとして数名からではありますが、透析患者様の自宅訪問を行い、日々の透析療法時の状態や検査結果についてお知らせし、コミュニケーションを図らせて頂きました。また、臨床工学技士は透析機器のみならず、シリンジ・輸液ポンプメンテナンスも強化し、医療機器の故障による事故ゼロを継続中です。私たちのモットーは「安心・安全な透析療法を提供すること」です。

今後も透析患者様・御家族様が安心して透析療法が行えるようにチーム一丸となって愛と知識を持ち信頼される透析室を目指していこうと思います。

訪問介護弓浜真誠会
事業所長　竹宮 早紀

訪問介護では、今後、施設入所が難しくなり、認知症高齢者、単身高齢者や高齢者世帯の増加に伴い、医療や介護サービス以外にも在宅生活を継続するための日常的な生活支援を必要とする利用者の増加が見込まれます。

訪問介護を利用される１人１人と向き合い、住み慣れた地域で生活が継続でき、ご家族・ご利用者の介護負担が軽減できるようニーズにあったケアの提供が出来るように介護職としてのスキルアップにも努めていきます。また、介護の方法についてのアドバイスなども行っておりますのでお気楽にご相談下さい。

真誠会セントラルレジデンス
定期巡回・随時対応型
訪問介護看護真誠会
事業所長　赤井 康人

真誠会セントラルレジデンスもお蔭様で開設４年を迎え、皆様と共に地域にあるお住まいとして運営して参りました。ありがたいことに昨年度も沢山の方にご入居頂き、これも皆様の暖かい御支援の賜物と深く感謝しております。私たちは今後も入居者様お一人お一人に合わせた、より良い生活支援の提供を目指し邁進して参ります。また今年度もオレンジカフェのイベントや観光ツアー、恒例となりましたハンドマッサージ、カラオケ、映画鑑賞などのサークル活動も実施していきます。

医療法人真誠会
総務課長　長谷川 俊彦

業務支援本部では、新規事業計画が予定通り開設できるよう、業者との連携を図るとともに職員確保に向けて積極的な採用活動を行います。あわせて、患者様・利用者様が安心して真誠会を利用できるよう各事業所をサポートしてまいります。利用者様の満足度向上に向けて職員のレベルアップの推進と働きやすい職場作りを目指して、ワークライフバランスに配慮した職場環境の構築を推進する計画です。これからも、地域の皆様に愛される企業を目指して、改善を行っていきます。

医療法人真誠会 常務理事
社会福祉真誠会
総務課長　前田 浩寿

平成２９年は新たな施設を３箇所（夜見、河崎、新開）開設する予定です。地域の皆様から、真誠会が近くにあって心強いと言って頂けるよう頑張っていかなければならないと思っております。質の高い介護サービスを提供させて頂くことはもちろん、現在、理事長が最優先課題としている各地域で「地域ケア会議」が開催されるよう、その支援に取組んでいかなければならないと考えております。地域の課題解決に向けて、昨年以上に地域に貢献できる真誠会となれるよう努力していく所存です。

(有)メディカルフロンティア
生活支援隊
課長　長山 誠司

生活支援隊（福祉用具・介護用品の販売貸与事業）は、契約者数、介護用ベッド契約件数、商品契約件数の増加数等を総合的指数で評価し、米子市内の事業所で総合第１位となりました。また、７月には米子産業体育館において福祉用具展示会を開催しました。今回が初めての開催であり、我々も手探りでの準備となりましたが、出展企業 43 社の協力もあり、２日間で約 150 名が来場され大盛況となりました。今年も社員一丸となり切磋琢磨して頑張っていきます。

真誠会　行く年来る年

秋　弓浜ホスピタウン 第15回ふれあい文化祭

約 500 点も集まりとても盛大でした

弓浜ホスピタウンに多くの作品が集まりました。ケアハウスリバーサイドに「ふれあい喫茶」もオープンしとてもにぎわいました。

冬　米子ホスピタウン 真誠会セントラルクリニック クリスマス会

今日は院長サンタの回診だよ♪

季節の風を患者さん・ご家族にお届けするために、院長サンタクロースはじめ病棟・外来スタッフが一丸となり、クリスマス会を行うことができました。

年末　外浜ホスピタウン 地域交流合同餅つき大会

利用者様、ご家族様及び地域の皆様方への感謝の気持ちと未来の夢と希望を託して、地域と合同企画で餅つきをしました。和田保育園の園児も一緒になって楽しみました！

新年　米子中央ホスピタウン お正月企画

イロ鳥ドリな幸せが訪れる一年でありますように

セントラルローズガーデンでお正月企画として、かるた大会や福笑い、書初めをして楽しみました。